

国際文化交流学部国際文化交流学科カリキュラムマップ

【設置の趣旨・必要性】
 ○我が国において、さらなる訪日外国人旅行者数の増加が見込まれる中、地域においても「観光振興」や「地域創生」の面からまちづくりを推進するため、地域資源を活かした交流拡大に取り組める人材を育成する。
 ○地域の外国人住民が増加し、人の価値観や生き方が多様化する中で、外国人住民も市民と同様にコミュニティの一員として活躍できるようなまちづくりが重要となっており、異文化を受容し、多文化共生社会の実現を担うリーダーとして、まちづくりに取り組むことのできる人材を育成する。
 ○地域経済を支える中小企業が、小松空港などのインフラを活かし、グローバル化に対応する中で、今後も高い経済成長を続ける中国や東南アジアに向けた海外展開を進めていくためにも、英語・中国語等の外国語運用能力と豊かなコミュニケーション能力を身につけた人材を育成する。

【養成する人材像】
 国際的な視野から地域社会の持続的発展に貢献できる人材を養成する。
 ○インバウンド受け入れと多文化共生社会の実現に寄与する人材
 ○地域を基盤として貿易、国際協力等に尽力する人材
 ○地域特性を生かした観光資源の開発と海外発信に貢献する人材
 ○豊かなコミュニケーション能力と外国語運用能力を持つ人材

アドミッション・ポリシー
 国際文化交流学科は国際的視野を身につけ、それを地域貢献に活かすことを目指す人文社会系の学科であり、本学科の教育理念及び教育目標に基づいて次のような学生を求めます。

(知識・技能)
 ① 高等学校の教育課程で学ぶ知識・技能を幅広く、かつ高いレベルで有している人
 ② 異文化社会あるいは地域社会に常に興味を持ち、情報分析や外国語などのスキルを向上させる意欲をもつ人

(思考力・判断力・表現力)
 ③ 社会の様々な課題について、知識や情報をもとに筋道を立てて論理的・分析的に思考し、自分の言葉で表現できる人
 ④ 知的探究心を持って広く社会に目を向け、柔軟な発想で物事を捕らえることができる人

(主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度)
 ⑤ 良心と社会規範に従って、良識ある行動をとることができる人
 ⑥ 人々との交流を大切にし、常に温かな配慮を持って他者と接することができる人
 ⑦ 自らの成長のために粘り強く物事に取り組むことができる人

共通教育科目
 専門基礎科目
 専門外国語科目
 英語科目
 中国語科目
 観光・地域創生系科目群
 専門科目
 (政治経済系科目群)
 専門科目
 (言語文化系科目群)
 専門科目
 (学外実践科目)
 専門科目
 (演習科目)
 黒の囲い: 選択科目、選択必修科目
 赤の囲い: 必修科目
 ※EPlus科目

カリキュラム・ポリシー
 ディプロマ・ポリシーに掲げる多様な人材を地域社会と企業に送り出すために、段階的履修を通じて一つの専門に偏らぬ学習ができるカリキュラム構成とする。

基礎力の形成
 <DP①②に対応>
 (1) 1年次は、導入科目によって、本学科で学ぶ意義を理解し、一般教育科目によって幅広い素養を身につける。
 (2) 2年次は、国際社会と地域社会についての基礎知識と専門分野へのアプローチの方法を学ぶ。

外国語能力の形成
 <DP③に対応>
 1年次から3・4年次まで、英語、中国語を継続的、段階的に学習し、TOEICなどの検定試験によって到達段階を確認する。

地域の国際化を射程に入れた地域活性化や町づくりのための仕組みについて、観光という視点から考え、理解を深める。
 中国・台湾、ASEAN地域から中東及び旧ソ連圏に至る国際政治、経済、社会などについて幅広く学ぶ。

応用・実践力の形成
 <DP④⑤に対応>
 3・4年次開講の演習、海外での語学研修、異文化体験実習及び国内での地域実習、インターンシップ等を通じて、異文化対応能力や地域からの発信能力を身につける。また、卒業論文執筆のプロセスを通じて調査、プレゼン能力等の向上を図る。

教育課程							
1年		2年		3年		4年	
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
<共通教育科目> ・自己形成と学ぶ意義を考える ・地域を知る ◎導入科目 キャリアデザイン・チーム論 アカデミック・スキルズ 大学生生活と南加賀の歴史と文化 情報処理基礎 経済学 自然資源と環境問題 日本産業史 心理学 ◎人間力科目 ◎科学力科目 ◎社会力科目 ◎健康と体力 国際地域研究入門 日本を知るA ※ グローバリゼーションと地域社会 ※		<専門基礎科目> ・国際社会とその文化的多様性の学び ・専門教育の基礎となる豊かな教養の育成 地域政策概論 グローバル観光論 地域イノベーション論 地域資源の活用に関する基礎的知識 ・地域と世界を併せ持つ視点・社会を捉える力の養成 グローバルヒストリー アジア社会論 ※ 日本文化論 ・多文化共生のための知識・理解、調査分析能力 ・国際交流・国際協力の実践のための基礎知識 異文化コミュニケーション論 (※再掲)異文化体験実習、 海外語学研修 ・国際社会の政治・経済・歴史・言語の基礎知識		地域観光・資源論 国際資源・環境論 市民社会論 メディア文化論 グローバルキャリア論 International Special Topics		観光学概論 観光産業概論 観光社会学 観光マーケティング論 インバウンド観光論 ※ 地域文化論 観光文化論 ビジネスモデルと企業家精神 現代ツーリズム論 Tourism Geography ※	
英語 I a 英語 I b Intercultural English 中国語 I a 中国語 I b		英語 II a 英語 II b 英語 III English Academic Reading and Writing English Academic Speaking and Listening 中国語 II a 中国語 II b		Academic English I Academic English II 中国語 III a 中国語 III b 中国語 IV a 中国語 IV b ・習熟度に応じて履修科目を決定		Tourism English (※3・4年次に履修) Applied English Communication Applied English Workshops 総合中国語 I 実践中国語 コミュニケーション中国語 総合中国語 II ビジネス中国語	
観光や地域活性化のための仕組みについて、観光という視点から考え、理解を深める。		観光や地域活性化のための仕組みについて幅広く学びたい者が履修		観光学概論 観光産業概論 観光社会学 観光マーケティング論 インバウンド観光論 ※ 地域文化論		観光文化論 ビジネスモデルと企業家精神 現代ツーリズム論 Tourism Geography ※	
中国・台湾、ASEAN地域から中東及び旧ソ連圏に至る国際政治、経済、社会などについて幅広く学ぶ。		国際社会、政治、経済の仕組みについて幅広く学びたい者が履修		国際政治論 異文化間心理学 中国語圏社会文化論 ※ アジア現代史概論 日本社会論 ※ 東南アジア地域社会論 ※ イスラム社会論 宗教社会論 ※ 国際開発論 中東政治論		世界各地の社会・政治・経済の理解 ・メディアと世界の関わり方の理解 (※3・4年次に履修)	
言語そのものの分析や、文化や社会との関わり方の理解と言語による文化的創造について幅広く学ぶ。		言語の分析や言語と歴史、文化、社会の関わりについて幅広く学びたい者が履修		言語学概論 英語研究A 英語圏言語文化論 英語圏表象文化論 ※ 中国言語文化論 英語研究B 中国語研究A 社会言語学 日本語の歴史 語用論 日本古典読解 中国語研究B 日英対照言語表現論 比較文学論 現代日本文化論		言語と文化を客観的に比較・分析する能力の養成 (※3・4年次に履修)	
応用・実践力の形成 <DP④⑤に対応> 3・4年次開講の演習、海外での語学研修、異文化体験実習及び国内での地域実習、インターンシップ等を通じて、異文化対応能力や地域からの発信能力を身につける。また、卒業論文執筆のプロセスを通じて調査、プレゼン能力等の向上を図る。		異文化体験実習 ※ 海外語学研修 ※		グローバル演習A グローバル演習B 学外PBL研修 地域実習A 地域実習B 専門演習A 専門演習B インターンシップ (※3・4年次に履修)		表現能力、発信能力の養成 ・課題発見、問題解決能力の養成 卒業研究A・B ・実践力 ・コミュニケーション能力	

ディプロマ・ポリシー
 学科の養成する人材像に基づき、以下の項目における学科共通の能力を修得するとともに、それぞれのコースごとに求められる能力を獲得した者に、学位(国際文化学)を授与する。

